

私が考える現在の埋立処分の課題

災害廃棄物処理処分のバッファ
としての埋立処分場

2016年北海道での台風被害事例
小規模自治体での調査を通じて

室蘭工業大学 吉田英樹



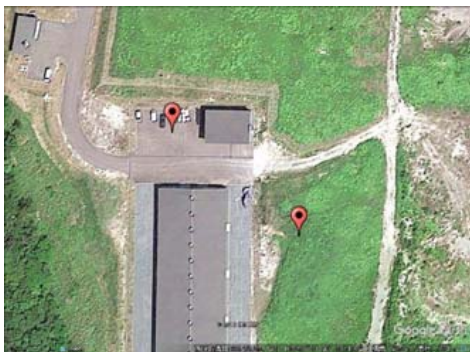
北海道内の被災地調査結果(1)

- 2016年9月6日(発災後7日) 住宅地被害調査
 - 8月31日に台風10号による大雨で堤防が決壊し、大規模に住宅地が浸水
 - 街中には水害により発生した災害廃棄物が溢れ、住宅の傍に積み上げられている状況。



北海道内の被災地調査結果(2)

- 2016年10月28日(発災後1月) 仮置場調査
 - 災害廃棄物1163トンが最終処分場内に仮置き
 - 木工・家具類と混合廃棄物の仮置場を温度測定したが、温度上昇及びガス発生は見られなかったが、積み上げ高さ制限・温度上昇の可能性(水蒸気発生あり)について担当者に注意喚起

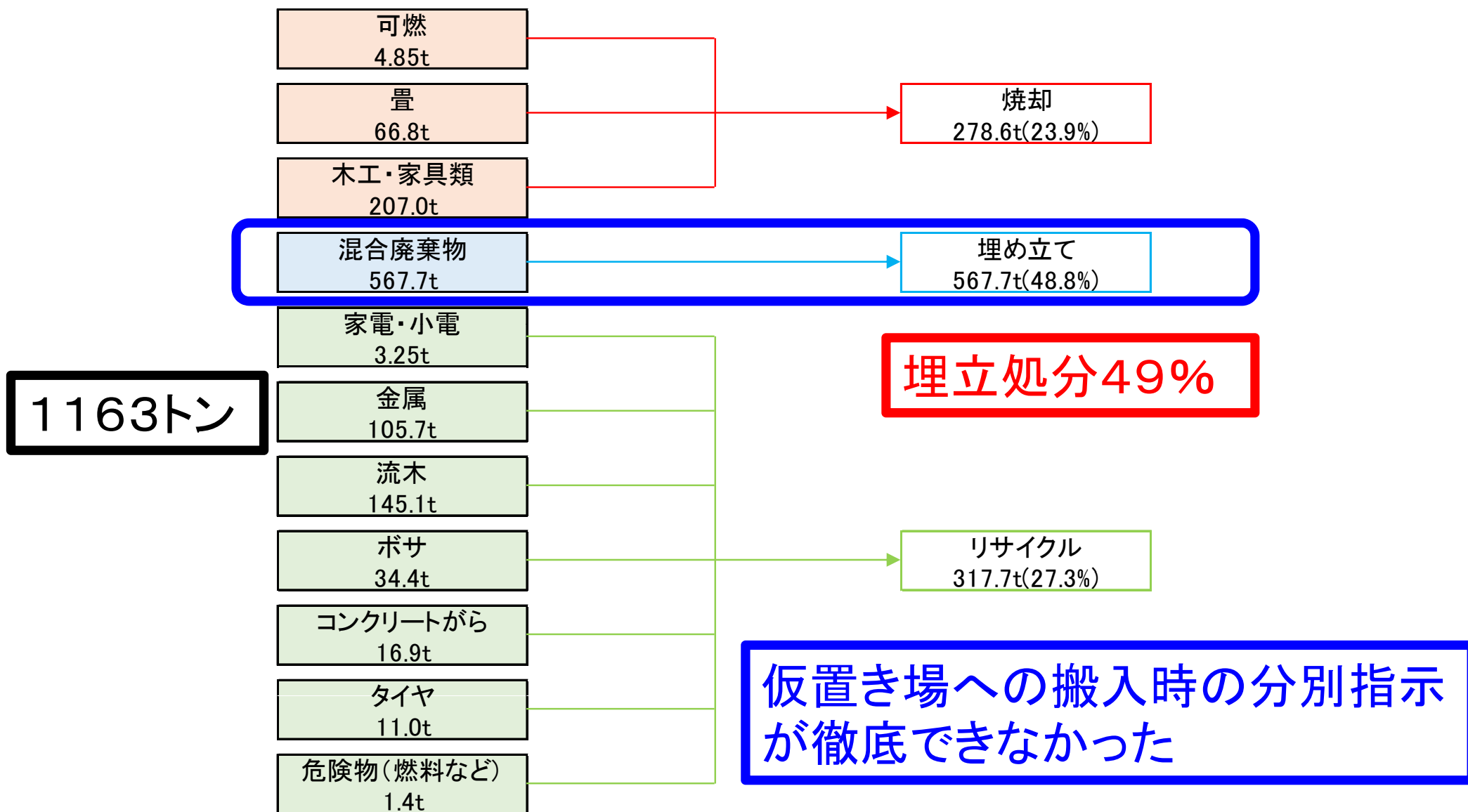


北海道内の被災地調査結果(3)

- 2016年10月28日(発災後1月) 仮置場調査
 - 分別が不十分な混合廃棄物が搬入されていた
 - フレコンパックにすべて分別せずに梱包しているため、処理困難物として埋め立てをせざるえない状況
 - 含水率が高くなり、地域の焼却施設で受け入れられなかった



②処理処分現況調査結果(2)



災害廃棄物処理処分のバッファーとしての埋立処分場（小規模自治体）の課題

- 災害による住民対応に忙殺され、**担当者1名で災害廃棄物に対応**せざるえなかった
 - 初動では北海道庁・環境省の支援があったが、**1ヶ月以上経過**すると、**担当者のみで対応**
 - 人の目につきにくい処分場では**管理が行き届かなかった**
- **混合廃棄物の埋立処分率が高かった**
 - **積雪寒冷地で、処理猶予期間が短かった**
- **水害廃棄物**の場合、被災地域からの撤去への要望が強く、**分別が徹底しない状況で仮置き場に持ち込まれる可能性が高い**
 - **埋立処分場に簡単に設置できる機械的な分別・処理システムがあれば、埋立は回避**できる...